海の寺子屋　第24時限目

有藻性イシサンゴの増え方と成熟

（公財）黒潮生物研究所　主任研究員　目崎　拓真

サンゴと言えば南方の海でよく見られ、青い海に広がるサンゴ群集にカラフルな魚が集まる風景はレジャーダイバーだけでなく一般にも広く認識されています。一方で JF シェルナースにも定着し、魚介類の隠れ場として機能する様子も確認されています。そこで第 24 限目となる今回は、公益財団法人黒潮生物研究所の目崎主任研究員より、サンゴ類の生態について紹介していただきます。

サンゴは刺胞をもつクラゲやイソギンチャクの仲間で動物です。私の研究しているサンゴはその中でも体内に「褐虫藻」という植物プランクトンの一種が共生し、石灰質の骨格をもつもので、「有藻性イシサンゴ（以下サンゴ）」と呼ばれています。近年の海洋温暖化で、生息範囲が北へ拡大している種が報告され、注目されています。サンゴ北上の例として、シェルナース NEWS２４号で紹介された、愛媛県宇和島市海域に設置された JF シェルナースのサンゴ群集があります。宇和島市周辺はこれまで大規模なサンゴ群集の報告例がほとんどなかった海域でしたが、近年の調査で見事な卓状サンゴの群集が発見されています（写真１）。

写真１　シェルナースのサンゴ群集（愛媛県宇和島市海域）

そんなサンゴですが、増え方には大きく２通りの方法があります。ひとつは、「無性生殖」といい、サンゴが分裂や出芽でクローンを作りながら増える方法です。もうひとつは、「有性生殖」といい、卵や精子を海中に放出し増える方法で、一般的にこの放出を「産卵」と呼びます。卵は受精後数時間から数日でプラヌラ幼生になり、新たな定着場所を求めて遊泳します。日本では４～10 月にかけて、各地の海でサンゴの産卵が見られます（写真２）。

プラヌラ幼生はお気に入りの岩などが見つかると、定着し成長していきます。では、定着後サンゴは何年で産卵するようになるでしょうか。写真１の卓状サンゴでは、約５年で産卵するようになります（高知県大月町の例）。種は違いますが、熱帯のサンゴ礁では３年で成熟するという記録もあります。宇和島市の JF シェルナースでは、調査の結果、長径 20～30 cm の卓状サンゴで卵を持ち成熟していることが確認されました。この大きさのサンゴだとおよそ 5-6 年が経過していると考えられ、高知県の例とあまり変わらないことがわかりました。人知れず JF シェルナース上のサンゴも産卵し、新たなサンゴの立派な供給源となっていることでしょう。

サンゴの増え方イメージ図

写真２　サンゴの産卵